

(様式3)

## 自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	開設時に、代表者、管理者、職員で考え作りあげた。	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ケアに行き詰った際には、理念に立ち返っている。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	運営推進委員会、実習生には、その都度、理念の意味を話し、取り組みの事実を伝えている。地域の方々に関しては、関係が希薄である為、理念の浸透までには、至っていない。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	立地条件を考えると、地域の方との日常的な関係作りは、難しい面がある。日課としている公園までの散歩に出た際に、出会う方々には、積極的に挨拶をかわすようにしている。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	夏祭り、ログハウスでの喫茶等に参加して頂いているが、こちらから、地域に出でる参加というのは、まだまだ不十分である。	地域への、行事、フリーマーケット等への参加を考えていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		<p>今後は、具体的な事例を通して理解を深めていきたい。原因不明の打撲跡があれば、その都度、原因の究明に努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		<p>今回より始めた季刊紙をもって、地域への配布等を行い、グループホームの意義を地域に広める事の手がかりになればと考えている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		<p>今後とも、御家族からの、提案、要望は真摯に受け止め改善していきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>柔軟な対応を出来るだけの職員確保が今後とも、課題である。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は行っていない。離職に関しては、職員の意向もある為、一概には何とも言えない。ご利用者に対しては、その都度、ご説明させて頂いている。		離職は可能な限り防ぎたいと考えているが、一事業所だけでは限界があるとは思われる。ご利用者に対してのダメージだけは、防せぐ努力は続けたい。
<b>5.人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報は常に公開している。参加も本人の自由意志に任せている。研修費用も全て、施設で負担している。順次、実践者研修及び、リーダー研修の受講を勧めている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は西区GH連絡会に毎回参加し、情報交換をしている。又、他のGH職員の見学の受け入れ、相互の交流の機会を設けている。		他のGHとの現場職員同士の交流を活発に行える環境を作りたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	医療法人である事の福利厚生は整っている。		狭い空間の中での人間関係は行き詰る事が多々ある為、お互いの意見を尊重できる関係作りを目指したい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	認知症介護実践者研修、リーダー研修への受講は、順次、勧めている。その他の資格取得の為の勤務も考慮している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居当初は時間の許す限り、ご本人とマンツースで過ごす様にしている。</p>	<p>御家族の来訪時には、御家族から見たご本人の様子も取り入れながら、支援内容に生かしていく。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御家族に対しては、入居前より相談、不安なことを聞き出したうえでの、情報提供に努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当GHの入居希望で来られた御家族に対しても、現状において、必要と思われる社会資源の使い方等の情報提供を行っている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前より、御家族、ご本人の時間の許す限り、遊びに来て頂く様にしている。又、タイミングが合えば、音楽療法等にも参加して頂き、他のご利用者とのコミュニケーションが取れる様に配慮している。</p>	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理においては、ご利用者に教える事、又、その逆の関係もあり、どちらかの一方的な関係作りにはならない様にしている。</p>	<p>ともすれば、馴れ合いの様な関係に陥る事もある為、常に自己点検する様に努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	外出、外食などには御家族の参加を呼びかけている。又、ボランティアとして参加して頂ける御家族も増えつつある。畑の手入れにも定期的に来訪して頂いている。		外出に際しては、手紙で御家族のボランティアを募り、参加して頂いている。
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	来訪時には、ご利用者の状況をお話した上で、御家族との仲介役に努める様に、配慮している。家族会で情報交換の場を設けている。		今後も、より良い関係作りが出来るように情報交換を行いたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援  利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪時には、お茶を出し居室でゆっくりと過ごして頂く様に努めている。馴染みの場所へ出かける事は、現在出来ておらず。今後の課題である。		ご利用者及び御家族との関係から、馴染みの場所等を聞きだせる支援を行いたい。又、疎遠にならない様に、年賀状の投函等も支援に取り入れて行きたい。
31 利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士の関係には必要以上に入らない様に考慮している。洗い物の当番表を作成し、ご利用者同士の相性等を見極めて支援している。		
32 関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後、御家族の方が必要とされる様であれば連絡を取る様にはしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>行事、クラブ活動等の参加には、まずご利用者の意思確認を行っている。生活においては、御家族の意向もあるが、ご本人の思いを第一に考える様に努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前には、御家族より、入居後はご本人を中心として、傾聴に務め情報収集している。</p>	<p>業務に追われてしまう事があるので、再度、傾聴の意味を問い直したい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>表情や発言からご本人の思いを推測、また、日常における行動を記録している。それらを用いて、職員間で話し合い、多面的にご利用者を見る様に努めている。</p>	
<b>2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>御家族には、来訪時、計画についての相談をしている。又、関係施設の職員よりアドバイスを頂く事もある。月2回のミーティングで意見を出し合い、作成している。</p>	<p>御家族の意向とご本人の意向のギャップを埋める様な計画の作成を努力したい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には、3ヶ月事に見直しているが、必要であれば1ヶ月事に評価を行っている。又、書式の工夫を行い、全ての職員が随時、計画の見直し、計画案の記載を出来るようにしている。</p>	<p>計画が現状に沿わない時があるので、全職員がご利用者を多面的に見た視点を計画に反映させる様に努力したい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人毎に記録している。介護計画書も個人記録のカルテに綴り、カルテ記載の際に連動する様に工夫している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援  利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けているが、サービスの提供は行っていない。		
<b>の</b>				
40	地域資源との協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	水彩画、コーラス、書道、社交ダンス、等、10件のボランティアを受け入れている。警察、市バス、駅、と独自のSOSネットワークを作成し、その都度、協力を得ている。		
41	他のサービスの活用支援  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	御家族からの相談、見学者来訪時には、その都度、情報提供に努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働  利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には毎回の参加を頂いており、認定調査の際にも協力を得ている。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援  利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に御家族の意向を聞き、特定の主治医がない場合は、敷地内に併設しているクリニックを説明し同意の下、定期的に受診を行っている。		今後も、的確な情報を提供し、ご利用者の権利を最優先に考えていく。
44 認知症の専門医等の受診支援  専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は、認知症の専門ではないが、適宜、助言は頂いている。又、必要であれば、併設施設に往診に来られている、精神科医師にも協力を得ている。		
45 看護職との協働  利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	敷地内の老健の看護師、クリニックの看護師との情報交換は密におこなっている。認知症に理解のある看護師もいる。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働  利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院との情報交換、早期の退院に向けての体制作りは出来ている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	その都度、御家族と話し合い、方向性を決めている。かかりつけ医には常時、状態を報告をおこない、適切な医療を受けられる状態である。又、夜間の急変時にも、かかりつけ医との連絡は取れる体制作り、及び、来訪の協力にも同意を得ている。		認知症介護と終末期の意味を職員間で話し合い、誰の為の終末期なのかをしっかりと考えていきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援  重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に伴い、施設でのハード面、人員体制には限界がある。終末期に関しては、特定のご利用者に関しては、現在、模索中である。		これからも、ご利用者の状態観察、御家族との意向をその都度確認し、支援の限界を見極めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>職員間での情報交換の際、周囲への配慮に欠ける場面があるので、気配りが必要である。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		<p>職員側の思いを通す際には、結果として、参加して良かったと思って頂けるような支援を考えたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>ご利用者との関係より、ご本人の望む理美容やおしゃれを汲み取りたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設の厨房より、調達している。材料のみ頂きホームで調理する日がある。曜日によっては、献立作りから、買い物、調理を行う日もある。全てにおいて、協同行う様に心掛けている。		
55 利用者の嗜好の支援  利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物やお八つに関しては、各人の意向に沿って提供している。健康管理の面より、制限する事もあるが、基本的にはそれぞれの意向に沿っている。		常時の飲酒は原則的に認めていないが、週に1回程度は飲酒を楽しめるようにする。
56 気持よい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の記録をとり支援している。可能な限り、服薬に頼らず、乳製品の摂取、水分補給での排便を試みている。紙パンツの使用は控えている。		今後も、安易なオムツ使用は避けて、ご利用者にとって一番良い支援は何か、職員間で話し合っていく。
57 入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、朝より夕方まで可能である。その中で、ご利用者のタイミングを見計らい行っている。		入浴が体力の低下や認知症の進行により少しづつ億劫になってきておられるので、声の掛け方の工夫や、安心して楽しい入浴が出来るように工夫したい。
58 安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠が続く際は、日中の活動を増やしたり、散歩の頻度を増やしている。食後の居眠り等には、ご本人のペースで過ごして頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活においては、それぞれの出来る範囲での、役割分担はできている。米研ぎ、洗濯たたみ、掃除、食材運搬等。又、洗い物当番を決めての役割もある。個々の楽しみに関してまでは、まだ見つけ出せていないご利用者もおられる。		それぞれの生活の中での楽しみを見つけ出し、今以上にホームでの生活を有意義にして頂ける様な支援を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援  職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名のご利用者には、お金を自己管理して頂いているが、殆どの方は、ホームでの立替払いしている。但し、外出、買い物の際には、財布を手渡し、ご自分で支払いをして頂いたりと意図的に支援は行っている。		
61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、物療とそれぞれに外出はされている。又、外出が億劫なご利用者にも、意図的な声を掛けて外に出る様に支援している。		個別での散歩、ご利用者の意思決定による外出等を増やしたい。
62	普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日には、職員と個別で外出は行っている。又、御家族との外出を最優先に考え、まずは、御家族の予定をお伺いしてからの外出としている。		今後も、御家族との関係を優先して頂く。又、情報交換もしっかりとおこなう。
63	電話や手紙の支援  家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に電話は設置していないが、必要時には事務所の電話を使用して頂いている。又、職員が仲介を行っての使用もある。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定(7:30~19:30)はあるも、時間内であれば、自由に来訪して頂いている。初対面の方であっても、気軽に挨拶をする様に心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体ミーティングにおいて、研修等を行っている。日常的な支援で疑問に思う事があれば、皆で話し合い、解決策を練っている。又、併設の事業所とも情報交換を行っている。かかりつけ医との連携にて、不要な服薬を避けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日勤帯においては、原則的に施錠はしていない。見守りが出来ない状況や、緊急時には、一時的に施錠する事もあるが、必要最低限の時間に留めている。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各階にリーダー制を取り入れ、全体の状況を把握する様に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	それぞれのご利用者の状態に応じて、自己管理、ホームでの管理を見極めた上で対応している。毎日の居室チェックを行い、危険物の管理を行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり はっとの記入、事故報告書の記入をしている。それらは、毎月、月末の全体ミーティングでその月に起こった全ての報告書について、再発防止についての話し合いを行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルの作成があり、いつでも目の着く場所に掲示している。訓練までは、行えていない。		全ての職員が対応出来る様に、研修を行う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、ご利用者と共に、実際の火災を設定した避難訓練を実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時に、玄関開放、転倒のリスクについてご説明し理解を頂いている。入居後は、来訪毎に状態の説明をさせて頂き、リスクについてお話させて頂いている。		その都度、御家族には状態を連絡し、新たな取り組みの際には、リスクについて説明を行い、了承を頂いていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に気づいた際は、速やかな記録及び、職員間の伝達を行っている。その後、受診の必要性を見極め、週末等に差し掛かる際は、早めの受診を行っている。		些細な体調変化にも気づく様に職員間の連絡、かかりつけ医との連絡を小まめに行う
74	服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋記録を行っている。薬の変更があった際には、日誌、個別記録への記載を行い、全職員が情報を共有する様にしている。誤薬防止策として、朝、昼、夕、の色分け、薬セット時には、複数名によるチェックをおこなっている。		
75	便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や、乳製品の摂取を意図的に行っている。排便チェック表での管理を行い、必要時には随時、かかりつけ医に相談し、緩下剤の処方を受けている。散歩等、出来ない際は、屋内にて、ラジオ体操、療法士による体操を行っている。		可能な限り、服薬に頼らず、自然排便が出来る様に、現状の支援を継続する。
76	口腔内の清潔保持  口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週2回の薬剤による義歯洗浄。就寝前の口腔ケアをおこなっている。必要時は、御家族のご了承のもと、歯科往診をおこなっている。		ご利用者に合った、口腔ケアを考えていきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時にはその都度、水分量、食事量のチェックを記録している。又、食事、水分共にすすまない際は、ご本人の嗜好品を勧めたり、好きな時間に食事を摂って頂いたり工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設施設の協力のもと、各感染症に対するマニュアルを作成している。風邪が流行る時期には、うがい、手洗いを励行している。職員も流行期には、マスクの着用を率先して行っている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は全て、乾燥機を使用している。布巾は週3回、漂白を行っている。調理済の食品は2時間経過すれば、破棄している。		まな板の漂白も定期的に行っていく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周囲には、プランターを置いて季節の花を植えている。業者に依頼して1年中、何かしらの花が咲いている。玄関前には、ベンチや机を置いて、ご利用者がいつでも過ごせる様にしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には、生け花を置いたり、ご利用者の作品を展示したりと、空間を演出している。トイレには、造花を飾っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、廊下にベンチの設置、畳コーナーがある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、今まで使用していた家具類を持って来て頂く様に話している。又、その意味合いも説明させて頂いている。</p>		
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>エアコンや加湿器等で、常時の換気、湿度調整を行っている。ベランダの開放により、小まめな換気も行っている。エアコンの調整も、事務所に集中管理している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>それぞれのご利用者の状態に応じて、歩行器、車椅子、老人車を使用して頂いている。廊下には、手すりの設置もあり可能な限り、ご本人の身体能力に応じた生活を支援している。</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居当初は張り紙、表札、色紙、をドアに貼り付けたり、度重なる誘導を繰り返し行っている。</p>		
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダ、駐車場には物干し、玄関横には花壇、裏には畑とそれぞれの場所で、思い思いに過ごされておられる。</p>		

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



. サービスの成果に関する項目		エルダービレッジグループホーム
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日常生活において、あらゆる場面で工夫を行う事で、出来ないことも出来たりします。それらが、、自信になったり、楽しみになったりすると思います。職員は、小さい工夫、仕掛けを施し、ご利用者さんになるべく、自分でいろんな事に、挑戦してもらうように努力しています。残存機能を大切にしていきたいと考えています。